

ミツロウをキャンドルに

岐阜市の養蜂・ハチミツ販売「秋田屋本店」は、国産ミツロウで成形したキャンドル「Nukumori(ぬくもり)」の販売を新たに始めた。コロナ禍で自宅で過ごす時間が増える中、室内を温かく彩る商品に仕上がっている。(形田怜央菜)

岐阜の「秋田屋本店」新商品



新商品「Nukumori」をPRする田島さん(右)と中出さん＝岐阜市加納城南通の秋田屋本店城南事業所で

すす出ず、ほんのり甘い香

ミツロウはミツバチの巣を溶かして固めたもので、同社では主に、ミツバチが巣を作るのを助ける器具「巣礎」を製造する上で、ミツロウを使用している。貴重なミツロウを活用し、

ミツバチの良さを知ってもらおうきっかけにしよう」と、同社養蜂部の田島美雪さん(左)と中出健作さん(右)が昨年秋ごろから商品開発に乗り出した。

石油由来のパラフィンワックスが使われる一般的なキャンドルに対し、ミツロウのみで仕上げたキャンドルはすすを発生させない。ほんのりと甘い香りがあるのも特徴だ。

「ぬくもり」はミツロウの柔らかい黄色を引き立てるように瓶入りで、一品ずつ手作りしている。サイズは大小二つで、大は底の直径が七センチ、小は五・五センチ。大は底部にジェルワックスで透明な層をつくり、ドライフラワーをちりばめた。底からスマートフォンなどで光を当てると、インテリアとしても楽しめる。

中出さんは「液状のミツロウを固体へと成形する段階で表面にひび割れが起きるため、温度調節などが大変だった」と振り返る。田島さんは「炎のゆらぎを見て心をやすらげてもらえれば」と呼び掛けている。

大は税込み二千二百円、小は同六百六十円。同社の通販サイトか、城南事業所(岐阜市加納城南通)で購入できる。